

Y's Men International
Y Service Clubs International

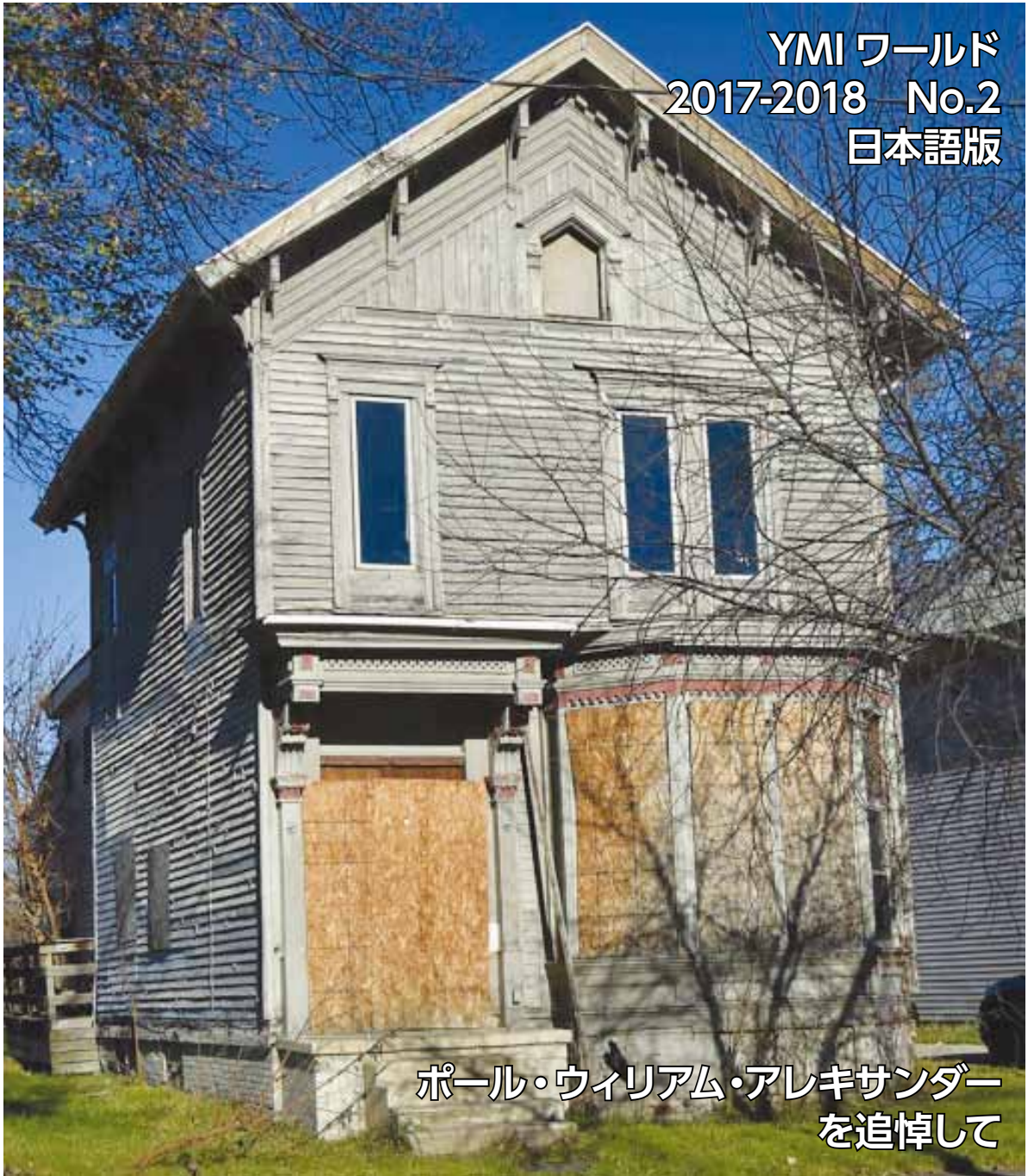
YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members



YMI ワールド
2017-2018 No.2
日本語版

ポール・ウィリアム・アレキサンダー
を追悼して

ポール・ウィリアム・アレキサンダーを追悼して:ポール・ウィリアム・アレキサンダーの足跡・我らの目的と目標への指針、我らの理想像と使命(ポール・ウィリアム・アレキサンダー)・現代における我が創始者の先見的視点の正当性について指導者たちの振り返り・変化するヨーロッパでキリスト教とワイズダムをどう見るか・各地域からのニュース・抵抗と希望:オリーブキャンペーン:パレスチナ人の非暴力と連帯の抵抗・国際本部最新情報:YMI サテライトオフィスの現地 YMCA との連携・マックス・エディガーのコラム - もうひとつのきよしこの夜



読者の皆さまへ



間もなく2022年に訪れる100周年をどう計画するかをの討議を昨年ラスベガスでの国際議会にて行っている中で、私たちの創始者であるポール・ウィリアム・アレキサンダーの子孫を探し出し、彼らを巻き込もうという提案が出てきました。このことは、ポール・ウィリアム・アレ

キサンダーの足跡を再び訪問してみようというアイデアのきっかけとなりました。そして、私たちは、12月8日がちょうど彼の生誕130年にあたることに気が付きました。YMIワールドの今号は、彼の足跡を再び辿ることによって、このひとつの区切りの記念誌となると言えましょう。

私たちは、最初から始めました。ポール・ウィリアム・アレキサンダーが彼の人生の全てを過ごした場所、オハイオ州トレドです。そこはワイズメンズクラブ国際協会が誕生し、しばらくの間、本部があった場所です。私たちの歴史家であるデビー・レドモンドは、彼の墓地を探すためにトレドを訪れました。彼女が見つけたことをこの号で読むことができますが、きっと皆さんを驚かせることでしょう。彼女は、派手さや富が人目を惹いていたその時代に、極めて控えめな一人の男を発見したのでした。私たちは、自分の肖像画のために人々のお金を使うことを拒み、その金額をYMCAスタッフの研修のために使った例を通じて彼の滅私の精神を知っています。私たちが知らなかったのは、彼が1967年に亡くなった後、火葬に付され、その遺灰は墓標の無い墓地に埋葬されたということです。これ以上に利己的でないことがあるのでしょうか？彼は、彼が持っていた全ての物を人々に与えたのでした。

ポール・ウィリアム・アレキサンダーは、私たちに偉大な運動を遺しました。運動の指針となる原則は、彼の手になるものでした。そしてそれが、この号を通じて私たちが触れる彼の遺産です。1951年にYMCAとYMIのリーダーたち宛ての、運動における「開放性」と「多様性」(彼が使った言葉どおりではありませんが)についての彼の立場を表明する文書を掲載しました。そのことを中心として、何人かのシニアリーダーたちに、彼の遺したものについて回想してもらうことを依頼し、6人から、それを再確認し、さらに拡げる寄稿がありました。元国際会長・藤井寛敏は、彼の回顧をこのような適切な質問で締めくくっています。「何時の日か、Y'sメンズフラッグがクリスチャンフラッグに置き換えられる

表紙写真：オハイオ州トレドでポール・ウィリアム・アレキサンダーが育った家。この写真を撮影したデビー・レドモンドは「ほとんど何も残ってはいなかった。銘板があったとのことであるが、今は無かった」と言っている。

のであろうか？」それは象徴的な意味だけではなく、現代において、彼の遺産の成就であると思います。

寄稿者に深く感謝申し上げます。歴史家・デビー・レドモンド、国際会長・ヘンリー・グリンドハイム、元国際書記長・イングヴァー・ワリン、元国際会長・藤井寛敏、ベンソン・ワブレ、ポール・V・トムセンそしてフィリップ・マタイの皆さんが寄稿の依頼に応じてくれました。他の方々も今後の寄稿で、これらの方々の思いを補っていただければと思います。

もうすぐ新しい年が始まります。ほとんどの者が何かを決心する時です。恐らく、この新しい年に際して最良の決心は、創始者によって示された例を見習うことでしょう。彼は、彼の人生すべてを助けが必要な人々に捧げ、彼の後に特別な目的を持つ手段—ワイズメンズクラブ国際協会—を私たちが彼のミッションを継続するために遺したのです。季節のご挨拶とともに

ワイズリー
コシー・マシュー

私の本棚から

希望を持ち続けて：ひとりの女性：9万人の人生が変わった：ハワ・アブディ著

ソマリアで彼女の娘たちとともに、9万人の市民を安全で、健康で、教育を受けた状態に保った一人の勇敢な女性の自叙伝。

ハワ・アブディ博士は「ソマリアのマザー・テレサ」と呼ばれ、ノーベル賞候補者であり、戦争で荒れ果てたソマリアのモガディシュから数マイル離れた地の追放された人々のための大規模なキャンプの創設者です。1991年にソマリア政府が崩壊し、飢饉が襲い、支援団体が逃げ去ったとき、暴力と貧困で人生の希望が打ち砕かれた人々への助けに自らを捧げました。

彼女は、自身の1,300エーカーの農場をキャンプに変え、9万人の難民を、しばしば国を分裂させてきた部族の違いを無視して受け入れました。彼女は、彼女の娘たちのデコとアミナを奮い立たせて医者にしました。彼女たちは、共に彼女たちの病院で何万もの命を救い、また、何百もの子供たちに教育を授けました。



2010年にアブディ博士は、単に彼女が女性であるというだけで急進的な反乱兵に誘拐され、また、彼らは、彼女の病院のほとんど破壊しました。彼女は、メディアの圧力とともに、反乱兵を説得し、文書での謝罪を要求し、それを得ました。アブディ博士のとてつもない勇気と忍耐はすべての読者を感動させることでしょう。

(A Goodreads review)



ポール・ウィリアム・アレキサンダーを追悼して

我々の創始者会長であるポール・ウィリアム・アレキサンダーの誕生日は12月8日です。この日は、私たちの運動の中で、ワイズダムとは何であるかを広める目的で「創始者の日」として祝われています。今年は、生誕130周年にあたります。この機会に、1967年10月22日に米国YMCAの理事会の場で元国際会長のハーモン・ウイルキンソンが読み上げたアレキサンダー判事への追悼の辞の一部を以下に発表いたします。

彼は、類まれなる選ばれた人でした。価値ある夢を見、そしてこの夢を実現させる能力を持っていました。彼のキャリアにおけるふたつの特筆すべき事例において彼はそれを示しています。彼の「仕事」の分野において「余暇」においてです。それらは彼の記念碑です。「仕事」の分野では、全米犯罪非行協議会のロスコー・パウンド賞受賞であり、「余暇」の分野ではジョージ・ウィリアムズ大学の名誉文学博士号授与でした。

初めのもものは、彼のオハイオ州トレドの家庭・少年裁判所判事としての仕事に起因しています。彼は、家庭内の法律上の問題は、拡散した司法制度の中よりも、ひとつの統一された裁判所で取り扱われるべきだと確信しました。「非行と離婚は共通の仲間です。子どもを調べてみると家庭の問題に遭遇します。逆もまた真です。ある年には離婚希望者の内40%が子どもの問題で少年裁判所と関わっていました。」と彼は述べていました。

そうして彼は、オハイオ州トレドにルーカス郡家庭裁判所を生み出しました。これは、初めての「行動が病的な子どもたち、婚姻生活が病的な大人たち」のための裁判所でした。

ふたつ目のものは、生涯を通じてのYMCAへの献身と世界の隅々にまで広がったワイズメン運動の創設が認められてのことでした。彼は、最も偉大なYMCA指導者のひとりとして位置づけられています。

彼は、他の者に奉仕する人でした。彼は、人は他者に奉仕することによって自身が満たされると信じていました。付け加えると、奉仕する必要性は、他の同様な考えの人々と協調して働くことによって導かれていかなくてはならないと実感していました。反対に、個人的、国家的な利己主義は諸悪の根源と信じていました。

彼は、はるかにワイズメンの初代会長以上の存在でした。彼は、その父親であり、ワイズメンにおけるジョー

ジ・ウィリアムズでした。彼がその気風、目的、哲学を定めました。その憲法は、前もって彼が用意していた草案に基き、オハイオ州の憲法を参考にして改良され、また、先行するランチョンクラブの憲法から良いところが採り入れられています。彼は新入会員入会式の式文、全ての役員の就任式の式文を作成しました。後に、ワイズソン「いざ立て」の歌詞を書きました。

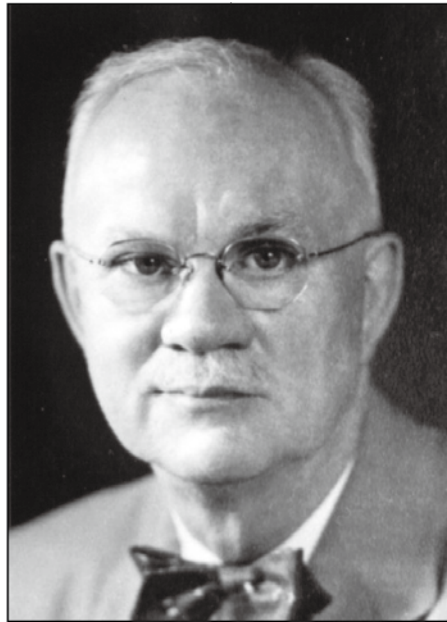
国際協会は、彼の根本的な貢献に対して名誉会長の称号を授与し、最高位の賞であるハリー・M・バラントイン賞を授賞しました。

彼は、彼が触れた人々を通じて不朽の名声を得ました。その者たちは、さらに他の人々の人生に触れ、新しい方向、次元、ビジョンを与えてきました。

彼は、何百人ものリーダーをYMCAに供給しました。ワイズメンを通じて勧誘し、活動するワイズメンとしてのリーダーシップ教育を行いました。

この集まりにおいて、ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事(1888年12月8日~1967年6月29日)がワイズメンズクラブ国際協会に捧げた人生と奉

仕に対して、しばしのと看敬意を表すことは相応しいことです。



1888年12月8日~1967年6月29日

ワイズメンインターショナル

ワイサービスクラブズインターナショナル公式誌

国際本部:Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長:コシー・マシュー

日本語版翻訳グループ:田中博之(委員長、東京多摩みなみ)、

青木一芳(千葉)、今城高之(横浜つづき)、利根川恵子(川越)、

太田勝人(東京世田谷)、倉田正昭(京都)、

谷川寛(大阪センテニアル)、谷本秀康(東広島)

印刷:(株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

次号の寄稿締め切り:2月28日

再発見

ポール・ウィリアム・アレキサンダー の足跡

国際事業主任デビー・レドモンド(ヒストリアン)

米国生まれの私は、他国の友人から、オハイオ州トレドを何回訪ねたかとよく聞かれます。実は最近までトレドにもオハイオ州にさえも行ったことがありませんでした。そこで今回、他国から米国を訪ねて来るワイズメンに勧めるためにも、私自身トレドを訪問することにしました。

私はポール・ウィリアム・アレキサンダーが、肖像画を描いてもらうためのお金を節約して奨学資金を作った(代わりに彼は私たちがよく用いるあの写真を撮った)ほど慎ましい人だったことは知っていましたが、トレドに行って体験するまでは、その謙虚さが彼のお墓にまで及んでいることは想像できませんでした。ポールが起草したワイズ役員就任の式文に、「人が役務を求めるのではなく、役務が人を求めるのだ」というくだりがあります。ここにポール・ウィリアム・アレキサンダーの真価が現れているように、彼は自分のなしたことに称賛を得ようとしたことはなく、逆に彼のなしたことが彼を讃えているのです。私たちはポールの故郷オハイオ州トレドでポールの足跡を探索しましたが、収穫はわずかでした。彼が幼少期を過ごした家は板張りされ、取り壊される寸前でした。彼が住んでワイズメンを国際組織にと構想した家はもう存在しません。彼と妻ロレインが40年住んだ家は改築され、彼らの家だったという標識も何もありません。



ポールと家族が40年過ごしたトレド郊外モーミーにある家屋

2017年撮影

トレドの歴史家がポール・ウィリアム・アレキサンダーを知っているのは、YMCAやワイズメン関係の事績についてというよりは、彼の判事の事績についてなのです。彼は家庭裁判所に勤務し、少年非行や離婚問題を扱う法廷を確立するために尽力しました。彼の業績の多くが全米の他の司法制度の手本になりました。彼は1937年に判事に任ぜられ、終生その職を続けました。夥しい数の専門記事や論

文を書きました。彼は種々の社会運動にも取り組みました。トレドYMCA、トレド少年倶楽部、北トレド社会館、障がい児協会、トレド公益金庫、児童福祉協会などの役員を務めました。ポールはまた全米少年審判協議会の会長としても奉仕しました。



トレドYMCAにある最初のワイズメンズクラブを示す銘板

ポールにとっても彼の家族にとっても、彼の仕事は公共奉仕的なものであり、その家族生活は非常に穏やかなものでした。彼は人目を惹くようなことは求めず、その代わりに組織や住民を支えることに力を注ぎました。1967年の彼の死に際しては、所属の教会で葬儀が営まれましたが、公開の埋葬はありませんでした。ポールも妻ロレインも、他の家族も皆火葬され、遺灰は多くの墓石の立つ綺麗な墓地に埋葬されました。彼らの墓碑には(遺言により)刻銘がありません。その理由は、ポールは私たちが彼を崇敬することを望まず、むしろ彼が重んじた奉仕を支援してほしいと願ったからではないでしょうか。彼を奉獻する記念碑も立像もなく、ただ彼を顕彰する小さな額がいくつかあるだけです。ですから私たちはポール・ウィリアム・アレキサンダーを称賛するためにトレドへ旅行する必要はありません。私たち自身の奉仕活動に専念することによって、彼に名誉を帰すことができるのです。



ポール・ウィリアム・アレキサンダーの遺灰が眠る霊地

私たちトレド訪問者は、ポールが50年前まで生活していた街路やゆかりの場所を歩きました。建物や公園や図書館、トレドYMCA資料館などで彼の足跡を辿りました。彼は私たち皆の模範です。世間の名声や評判を求めるなかれ。クラブをより良くし、ワイズ国際協会の価値を高めましょう。

(写真はどれも筆者撮影)



ポール・ウィリアム・アレキサンダーと彼が遺したものについて

ワイズメン運動はキリスト教組織でしょうか？ これはYMCAとの系統的なのつながりゆえ、1922年の設立以来関係者を悩ませてきた難問の一つです。ある者はこの運動のキリスト教性にしっかりと固着しており、他の者は広い意味でのキリスト教色を好ましいとして受け入れています。以下に掲げるのは、ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事が米国のYMCAとワイズ運動の指導者たちに宛てて1961年に書いた手紙からの抜粋で、2003-04年度の「ワイズメンズワールド」第2号に「永世遺産・創立会長」という題で掲載されたものです。私たちはワイズ運動のシニアリーダーの方々に、この遺産を、変化する世界情勢に照らして再吟味いただき、偉大な理想主義者アレキサンダー判事への賛辞を述べていただきました。——編集長

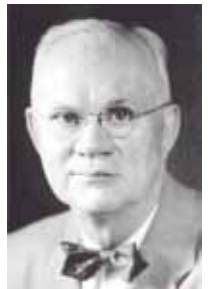
我らの目的と目標への指針、我らの理想像と使命

ポール・ウィリアム・アレキサンダー

私は常々、若くて活発なワイズメン運動は自由主義者の前衛の中にあるべきだと考えてきました。なぜなら、私は神学上の不和がとことん嫌いだからです。思うに、厳格な神学の境界線に固執しては、YMCAは自分を傷つけることになり、効力を狭め、結局世界をより良くすることはできません。それよりは、YMCAは門戸を広げ、キリストを救い主と信じようが信じまいが、キリストの教えを实践しようと励む会員、それも目的意識のある会員を受け入れるほうが良い。すなわち、(キリスト教徒以外に)ユダヤ教徒、ヒンズー教徒、ユニテリアン、イスラム教徒、神道の信者などにも会員になってもらおうということです。ただし、もちろん会員は、まともな考えの持ち主で、キリストの教えに同意していなければなりません。(教えといっても、キリスト教を分裂させ人類を苦しめるような神学ではないもの。)

まったく、上述のような神学は、人類にとって災いのもとでしかないと思います。お分かりでしょうが、私がワイズ役員就任の式文を作るとき極力神学を避け、ワイズの目的や定款の条項の中に神学を持ち込まないよう腐心しました。例えば就任式文の第2項にあるように、「Yは共通の目的のために共に働く同志の結合です。その同志とは、キリストの教えを实践しようと努める若者です。」私が関知する限り、教えとはキリストの倫理的教えであり、キリストの言葉の周りに塗り付けられた神学的教義ではありません。ワイズマンとは、何を信じるかではなく、何をを行うかに基づいて存立するものだ、と強調したいのです。正しさは神学からは創られません。道徳は神学の教義からは生まれません。ワイズマンの看板となる利他的奉仕の

徳は、キリストの十字架によって教えられた隣人愛の例証です。ただし、この徳を例証するには、キリストの教えを道徳として受け入れなくてはなりません。イエスをあなたの救い主として受け入れる必要はありません。それは神学的なことですから。実際、ユダヤ教徒ほ



「Yは共通の目的のために共に働く同志の結合です。その同志とは、キリストの教えを实践しようと努める若者です。」私が関知する限り、教えとはキリストの倫理的教えであり、キリストの言葉の周りに塗り付けられた神学的教義ではありません。

かキリスト教徒でない多くの人々が、並みのキリスト信徒よりずっとキリストの教えを实践しているのが現実です。もし、私たちの誰かが種々の神学的教義に基づく信仰を守りたいと思えば、そうするのがよいでしょう。しかし、そうするとその信仰を受け入れ難い他の人を軽蔑し、はねつけなければいけないのでしょうか？ 神学によって人を分断してはならないとい

うことを学べないのでしょうか？ 私が強調するのは、私たちが自分の信仰を変えるべしということではなく、他の信仰を持つ人や何も信仰を持たない人との協調・友情・支え合い・協力・協働の恩恵を失うべきではないということです。肝心なのは、イエスの道徳的教えを受け入れ、実践に努めるということ。それならヒンズー教徒、イスラム教徒、仏教徒やユニテリアンなどの人々にも受け入れ可能です。ここにワイズメンの神髄があります。勇気を奮い、表出する力を強め、Yが教派間のリーダーシップだけではなく、世界中の異宗派、異教徒間のリーダーシップにおける正しい位置を占めることを助けることは、私たち次第であると信じます。そして、私はこの観点から、Yだけが私たちの信念を捧げるべく創られた組織、運動であることを確信しています。

現代における我が創始者の先見的視点の正当性



ヘンリー・グランドハイム
2017-2018年度国際会長
世界中のワイズメンにご挨拶申し上げます。

我々の活動の創始者、ポール・ウィリアム・アレキサンダーの誕生日は12月8日です。私は、今こそ、彼のアイデアが何を創出し、今日私たちが、如何に彼の意図するところに生きていけるかを振り返って見る時ではないかと思えます。彼は価値のある夢を見、その夢の本質を実現しました。彼は、生涯を通じてYMCAに大いに貢献し、Y'sメン活動を通じて、彼のメッセージやアイデアが世界中に広がりました。

彼は隣人に奉仕する人であり、これは、我々のモットー「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」に反映されており、我々の活動の基本的な教えです。彼は、自身の行いにより、我々の生活に新たな方向付けをしたり、新たな価値を与えることで我々の生活を触発し、又今も触発し続けています。

1922年にオハイオ州トレドで彼が始めたランチョンクラブは、次第に世界的な活動に成長し、今や60以上の国々に存在しています。

国際会長であった2016年11月、私は訪米し、様々な会合や会議に出席しました。その旅の中で、私はミネアポリスやYMCAやY'sメン国際協会の記録が収録されているミネソタ大学公文書保管所などを訪ねることができました。そこで私は、元国際会長の故ハロルド・ウエストバーガー氏やミネアポリスのY'sメンズクラブの献身的なメンバー達とともに、ごく初期のY'sメンの歴史に関する古い書類、書簡、プログラムなどを見せて頂きました。ポール・ウィリアム・アレキサンダーの写っている写真や会議議事録なども見せて頂き、それらは私にとって素晴らしい思い出となりました。

クリスマスの月でもある12月に入った今、このアドベント（待降節）の日々を通じて、今一度神様が我々に送られたメッセージを思い出して願い、かつ祈りたいと思えます。

このメッセージを終えるにあたり、美しいクリスマスキャロルで、チャールズ・ウエズレー作詞、フェリックス・メンデルスゾーン作曲の「聞け天使の歌」を皆様と分かち合いたいと思えます。

聞け、天使の歌、
「新たに生まれし王に栄光を、
地には平和と神の慈悲を、
神と罪びとの和解を」

イングヴァー・ワリン
元国際書記長



本誌5ページの文章にある通り、我々の創始者であるポール・ウィリアム・アレキサンダーは、我々会員が、イエスキリストの教えを受け入れることの大切さを述べていますが、同時に、我々が教義的にならぬよう戒めています。これは、他の信仰を持つ人々が、キリストの教えを受け入れるのであれば、我々の運動に参加することを広く歓迎すべきということです。このことは、1968年の我々の国際憲法第II条に、我々の運動は、「イエスキリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思いに結ばれて、あらゆる信仰の人々が共に働く」と書かれています。

これこそ、今日の世界に、過激な運動がテロと恐怖を蔓延させる中で、我々の運動が、他の多くの奉仕団体と異なる点であり、より重要なのは、過激化や教条主義を防ぐため、異なる信仰を持つ人たちへ広く耳を傾けることです。このことを記憶し、言葉をもって伝え（もし、能弁者であれば）、更には、我々の行動を通じてこれを強化することが重要です。

再度述べます、我々の創始者の視点は、今日でも非常に妥当であると言えます。彼は、他の多くの奉仕団体の会員が『彼がビジネスの促進、社交、スポーツや友好を第一義としている間、我々は、会員がYに対して、また、Yを通じて社会に行い得る善き行いを喚起する』と指摘しました。（会員が男性のみであった1941年のスピーチより）“我々は、奉仕を通じて証しするために呼び集められた。”

これ以外で第II条に示された創始者の視点は、私たちは「相互理解と敬愛の思いに結ばれて」共に働く、です。何年か前、私はインドの指導者マダヴ・レディと、我々の運動におけるキリスト教強調について議論したことがあります。

議論の中で、マダヴに、「イングヴァー、あなたが我々のメンバーについて語るとき、クリスチャン、ノンクリスチャンという言葉は使わない方がいいよ」と言われるまで、私は数回にもわたりその言葉を使用していました。マダヴが言ったのは、「私は君がクリスチャンであることを知っていて、あなたは、私がペンズー教徒であることを知っています。でも、あなたが“ノン・ペンズー”というほど私は“ノン・クリスチャン”ではありません。そして、二人とも、“ノン・ブデリスト”だし“ノン・モスレム”です。会員のことを話すとき、クリスチャンの会員、他の信仰を持つ会員と言うべきではありませんか」私は、マダヴのこの極く単純な言葉から、私と異なる人を見降ろしているような姿勢で語るべきではないということを知りました、これこそ、今日も正当である創始者の視点と軌を一にするものです。



藤井寛敏

2010-2011年度国際会長

我々の創始者である、ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事の生誕130年を機に、彼の書簡を読み、彼がY'sは如何にあるべきかと思っていたかを考えてみるのは素晴らしいことと考えます。



彼のY'sメンズクラブに対する期待は、入会式(加盟認証状伝達式)式文に示されています。この式文は、彼がY'sメンズクラブは如何にあるべきかと考えるかが明確に表わされています。そこには、他の数多くの奉仕団体には見ることの出来ない、崇高な精神性が反映されています。この文章の基本的テーマは、彼の書簡「何故ワイズは排他的であるべきか」に見ることができます。彼は余り多くの書簡を残してはませんが、その一つがこの書簡であり、他は1951年に書かれたものです。その中で、アレキサンダーは、ノン・クリスチャンがYMCAあるいはYMIに加入することについての考えを述べています。

アレキサンダーはクリスチャンでしたが、恐らく、家庭環境や生い立ちによるものか、キリスト教の神学的教義に対して基本的には特段の関心はなく、自由主義的だったようです。

長じるに従い、他の信仰を持つ多くの素晴らしい人たちと交友関係を結び、大切なことは、人が何を信じるかではなく、人が何をなすかということだと信じるようになりました。

1855年のパリ基準制定の後、1851年に設立された米国YMCAは、他の宗教に属する人たちに門戸を開放し、より開かれた組織となっていました。しかしながら、一部メンバーからの強い抵抗があり、教義上の論争は、1922年にアレキサンダーがY'sメンズクラブ国際協会を設立した時も続いていました。彼は、YMCAを心から愛しており、Y'sメンズクラブは、YMCAを、真に開かれた組織にするという彼の夢を実現するものであったのかもしれない。

アレキサンダーの以下の言葉は、彼が式文を起草する際、キリスト教の教義をワイズメンに持ち込まないよう如何に努力したかが理解できます。彼は以下のように書いています。

「そうです、私の判断によれば、教義のようなものは、人間の呪いのようなものです。あなた方も、私が、式文を起草する際、如何に教義から遠ざかろうとしたか、また、目的に関する全ての声明文や憲法の規定の中で、私たちが、このことに言及するのを如何に慎重に避けてきたことにお気づきのことと思います。式文の第2章で、我々は、Yとは“共通目的のために働く人々の集まりである。人々と言うのは、キリストの教えの実践のために努力する若者のことである。”私が知る限り、これは常に、キリストの倫理的な教えであって、彼の周辺で築き上げられた独断的な教義ではないと理解されている。これは、Y'sメンは、彼が何を信じ

るかで見られるのではなく、彼が何を行うのかで見られるという事実により強調されている。」

最後に、再び彼の書簡から引用して締めくくります。

「正義は教義によって生み出されるものではない。公徳心は、独断的教義から生まれ出るものではない。私たちがY'sメンの印と主張してやまない、他の人に対する利己心のない美德はキリストが教えた愛の例示であり、キリストが十字架上で示されたことである。しかし、その教えにより、人が受け入れねばならない美德は倫理的であるが、神学的に自身の救い主としてイエスを受け入れる必要はない。」

今日、Y'sメンの国際大会の開会式では、クリスチャンフラッグが行列の先頭に位置しているが、何時の日か、それがY'sメンズフラッグに置き換えられるのであろうか。



ベンソン・ワブレ

2005-2006年度国際会長/
2012-2018元国際会長クラブ会長



書籍、手引書、方針、パンフレット、その他のワイズダムに関する文献を読まれた方は、ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事に関する様々な叙述に気付かれたことと思います。彼は、「地球上でまれな人間」のひとり、明確なビジョンをもった人、正義のためそして己のためよりも、より大きな目的のために献身する無私無欲の活動家、と説明されてきました。

Y'sメンのため、私は、以下の段落に示されるように、ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事の遺産(レガシー)を綴ってみたいと思います。

彼は、ワイズメンズクラブ国際協会を設立し、それを私たちやその後の世代に残しました。彼が創始者であり、建設者であり、名誉会長であるこの組織は、私たちや他の何百万の人々に、YMCAや地域社会、広くは人類に対する無私無欲の奉仕を行う機会を提供してくれました。YMIは、その無償の奉仕がもたらす、世界各地の友人や、忘れ得ぬ友情、楽しみや満足感を与えてくれました。

彼は、私たちに、これまで何回も改訂が加えられたにもかかわらず、安心して法律的な拠り所とする国際憲法を授けてくれました。憲法に掲げられた中核の価値には、美德、信頼、謙虚さ、己を超えた奉仕、正義などが含まれます。これらの全ては、時を超えたモットー、即ち、「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」に包含されています。

彼は、YMIに新しいメンバーが入会する時に使われた、そして今も使われている「入会式式文」を起草し、私たちに残してくれました。「入会式式文」は、「ワイズメンとはどういう人か?」

指導者達の振り返り

という疑問に答えてくれます。もし、誰かに「ワイズメンとはどういう人か?」と問いかけられたら、「入会式式文」を取り出し、問いかけた人に差し出してください。式文には、ワイズメンは、理想主義者であること、YMCAに尽くすこと、国際的な見識を持つこと、義務が全ての権利に先立つことを承認すること、誠心誠意活動することが要求されると書いてあります。

彼は、「役員就任式式文」も私たちに残しました。この式文は、リーダーのあるいはYMIの役職に就任する全ての人の資質を明確に記しています。役員就任式式文に書かれている主な資質は、理想を持つこと、興味を持つこと、イニシアチブを取ること、労をいとわぬこととなっています。YMIのリーダーシップに関する特徴は、役務が欲しい人が選ばれるのではなく、役務が人を選ぶとしていることです。

彼は、ワイズソングも作詞し、私たちに残しました。彼は、YMIの成長、維持、成功のために、コミュニケーションが果たす重要な役割を強調しつつ、頻繁に情報を発信し、効果的にコミュニケーションをとる人でした。

彼の創造性、将来への展望、さらに洞察力のあるリーダーシップがYMIの堅固な礎を築き、ワイズ運動が市民的、経済的、言語、民族、国際、国内、社会的、宗教的な垣根を越えて、世界中に拡大することに貢献しました。

彼は、思いやり、謙遜、慎み深さの価値を教えてくださいました。彼の慎み深さを象徴する例として、1950年にメキシコシティで開催された国際大会において、彼の功績を顕彰するために多額の経費をかけて、彼の肖像画を製作するという決議がなされた時に、その決議を拒否したことがあげられます。この肖像画のために、942.99米ドルの寄付が集められましたが、彼曰く「より価値のある目的に使用して欲しい」とのことで、結局、肖像画委員会はポール・ウィリアム・アレキサンダーの希望を尊重し、代わりに写真を撮って肖像画のための寄付金の残額900ドルを残すこととなりました。これにより、アレキサンダー奨学基金が誕生しました。

彼は、強い、安定した家族を大切にしました。彼の家族構成は、頼りになる、才媛で礼儀正しい妻のロレイン、娘のコンストラネクス、そして息子のアレキサンダー・ジュニアで、ルーカス郡の模範的な家庭でした。彼は、米国オハイオ州ルーカス郡の少年・家庭裁判所を創設し、その裁判官となりました。彼は米国で少年裁判所の裁判官として卓越していることを認められ、全米少年裁判官協議会会長に選出されました。また、安定した、幸せで円満な家庭を生み出すために、訴訟、争議、懸案事項などが解決されるように監督し、統括する全米少年機関会議の会長にも選ばれました。

ポール・ウィリアム・アレキサンダーが残した遺産はあまりにも多く、この短い記事の中にすべてを記すことはできません。いくつかを挙げてみると、偉大な組織力、世界的な展望、彼にコンタクトしてきた人、一人ひとりに耳を貸すこと、ポジティブな姿勢

を保つこと、すべての人により良く行動するよう勇気づけることなどがあります。彼は自己を越えて奉仕をすることにより、名誉というものは、自分が影響を与えた人々から、自然と自分にやってくると教えてくれました。

(ポール・ウィリアム・アレキサンダーについて感動する情報をさらに得たい方は、元国際会長クラブのニューズレター、2016年12月号と2017年9月号に掲載の私が執筆した記事をお読みください。)



ポール・V・トムセン
2013-2014年度 国際会長

私たちの創始者のビジョンは、ここヨーロッパでワイズ運動が開始された当初から、すべての人々にとって偉大なインスピレーションとなっています。そしてワイズ運動が、第2次世界大戦後に、スカンジナビア諸国に広まった時にも、創始者のビジョンはそれを知った人々すべてにとって根幹的なもので有り続けました。2017年に私たちは、ヨーロッパの3カ国、具体的にはコンゴ、モルドヴァ、ウクライナで、初めてのクラブをチャーターしました。

「奉仕する」という言葉に、明確に焦点をあてると、私たちのモットーは、すべての人々にとって常にチャレンジとなります。「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」というモットーは、インスピレーションであるばかりでなく、私たちが権利よりもまず義務を考えなければならないということを要求しています。

そして国際憲法の一節である、「イエス・キリストの教えに基づき」という表現も、今日の社会においてモットーと同じように大変意味のあることです。私たちは、最も困窮している兄弟姉妹を助けるように、つまり困っている人々を助けるようにイエスが教えたことを常に肝に銘じていなければなりません。イエスは言いました。「最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち私にしたのである。」また、イエス・キリストの他の教えでは、「わたしは道であり、真理であり、命である」とあります。私たちは、私たちの目的、つまり使命(ミッション)を説くときに、この教えを念頭に置いておくべきです。そうすることによって、私たちは母体であるYMCAに忠実に尽くす努力をすることになります。私の国際会長としての主題は、「全ての世界に出ていこう」でした。

ポール・ウィリアム・アレキサンダーの誕生から約130年になろうとしていますが、彼のビジョンは現代にも通じる大きな意味があります。ここヨーロッパでは、新しいクラブを作り、前述のイエス・キリストの「2つ」の教えに基づき、奉仕する人々を招き入れることによって、創始者のビジョンを具現化しようと努力しています。



フィリップ・マタイ
2012-2013年度 国際会長
成功とは、献身的で私心の無い、大変な努力の同義語です。ワイズ運動の創始者・ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事の人生と仕事は、まさに人類への献身と私利私欲のない奉仕の動かない証拠です。

少年裁判所の裁判官として、彼は、社会の中の青少年の非行問題と蔓延した離婚の原因に挑戦しました。そして彼はこの2つが関係していることを発見しました。そこで彼が最初にしたことは、社会からこの被害を取り除くことでした。

最初に、彼は問題行動のある子どもたちや結婚がうまく行っていない大人のために家庭裁判所をオハイオ州ルーカス郡に設置しました。次に、彼の人生において最も重要な功績となりますが、YMCAへの献身的な奉仕とワイズメンズ運動の創設です。この運動を通じて、彼は私たちを含む何千人もの人々の人生に影響を及ぼしてきました。彼は、個人的であれ国家に関することであれ、自己中心的な考え方がすべての悪の根源であると信じていました。

毎年12月8日の彼の誕生日に、私たちが「創始者の日」(訳注: 東西日本区では「祈りの輪」の日)として祝い、彼を偲ぶことは彼にふさわしいことでもあります。私たちは、79年間(1888-1967)を生きた偉大な人物に大きな恩があります。彼の無私無欲の性格、際限の無い貢献が偉大な運動の傾向、方向、哲学を決定しました。彼は、多くの人々に新しい側面や新しいビジョンを与え、長年にわたって影響を与えてきた人々の人生を通して永遠の命を得たのです。

この記念日には、私たちがワイズダムの理念に献身することと、ワイズメンの特質である私利私欲の無い性質を持つことが私たちの目的であることを認識することが不可欠です。周りを見回し、恵まれない人々に手を差し伸べましょう。しかしそれは、経済的に貧しい人々だけを助けようということではありません。今日、私たちが直面する問題は他にもたくさんあります。例えば、高齢者の孤独、麻薬中毒、家庭崩壊、レイプ、肉体的・精神的障がいなどです。真の愛は、共にあることであり、隣人を理解し、その人が必要としていることを提供することです。

支援することは私たちの義務であり、そうすることによりはじめて、それに伴う権利を確認できるのです。

ヨーロッパ地域の観点 変化するヨーロッパで、キリスト教とワイズダムをどう見るか



7月にヨーロッパ地域大会が開催されました。その折に「ワイズメンズクラブ国際協会におけるキリスト教」という内容の分科会・フォーラム2で、私は、国際憲法第2条第1項とガイドライン2011に重点を置いたプレゼンテーションをいたしました。ここに、ワイズ運動におけるキリスト教の定義と解説を行います。

私たちの憲法は、「ワイズメンズクラブ国際協会は、イエス・キリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思いに結ばれて、あらゆる信仰の人々が共に働く、世界的友好団体である」と述べています。ガイドラインでは、「イエス・キリストの教え」とは何かを説明しています。つまり、クラブの会員は、イエス・キリストが教えたことを受け入れ、そしてその教えを受け入れたことによって、運動体、クラブ、個人として彼のことばを実行に移すことになるのです。そして私たちの目的である、人類全てのためによりよい世界を作ることにつながります。

キーノート・スピーカーは、ラトビアの元大統領であったバイラ・バイク・フレイベルガさんでしたが、彼女自身の人生において「イエス・キリストのことばを実行に移すか」という大変素晴らしい例をたくさん含んだ話でした。今日、私たちはイエスの手であり、足なのです。しかし、それはすべての会員がクリスチャンでなければならないということではありません。

イエス・キリストを受け入れることはクリスチャンとなることと同義ではありません。私たちの運動で、私たちは開かれた心を持ち、開放的でなければならないと、決して他の信仰を持つ人々を排除してはなりません。ヨーロッパに来る移民の人たちは、私たち

に私たちのクラブを彼らに開放する可能性を示唆しています。彼らはクリスチャンになる必要はありませんが、私たちの基本となるものを受け入れなければなりません。そして、ともにより良い世界を築くために働くのです。つまり、キリスト教の方法で働くということであり、これは私たちの運動における義務であります。

最後に、「私たちはキリスト教の運動体である。ゆえに私たちはワイズメンである。」と言いました。参加者に私が質問したことは、世界中のワイズメンにも考えて頂く価値があると思います。

キリスト教強調をどう思いますか?

私たちはキリスト教の運動ですか?—あるいは何故違いますか?

すべての異なった信仰を持つ人々をどう思いますか?

私たちにはキリスト教の使命がありますか?

すべての異なった信仰を持つ人々と対話をする準備ができていますか?

ご自分のクラブ・ライフをどう思いますか。—何か今変える必要があること、あるいは変えたいと思うことがありますか?

ワイズメン運動の中におけるキリスト教についてご自分の意見を発表してください!

どう思うかお知らせいただくのは大歓迎です。連絡先は carlhertzjensen@gmail.com です。

カール・ヘルツージェンセン、キリスト教強調国際事業主任



キングスウッドワイズメンズクラブが児童向けのホスピスを支援

英国のキングスウッドワイズメンズクラブのひとりのメンバーが、チャールトンファーム(ホスピス)の開設前から関わっていました。彼が食堂のステンドグラスの修復を請け負っていた関係で、我々はこの活動に関心を寄せました。



修復された食堂のステンドグラス

我々は、2007年1月にホスピスについて話し合い、2月の開設前にこのホスピスを訪問しました。同年の後半に支援のための基金集めに参加しました。それ以来、我々は継続的にこの素晴らしい慈善事業に献金してきました。2017年7月に我々は過去10年間のこのホスピスの成長を見るための見学会を開くことが出来ました。毎年英国のホスピスでは200,000人の末期的あるいは致命的な疾病を持つ患者の重要なケアを行うとともに、これらの患者の家族たちのサポートもしています。ホスピスでは、患者の痛みを和らげる事から、患者の情緒的、精神的あるいは社会的なニーズを満たすのみならず、患者が充実した人生を送れる様、支援しています。

サウスウエスト地区児童ホスピスでは、児童から21歳までの終末期、致命的な疾病を持つサウスウエスト地区内の患者とその家族にホスピスケアを提供しています。ホスピスケアは、広範に亘ります。痛みの中断、短期間の休み、緊急のケア、対症療法と、終末治療などです。我々のクラブの地域には3か所のホスピスがありますが、チャー

ルトンファームホスピスはその内の1か所です。チャールトンファームホスピスには8つの子供向けの部屋と両親と家族向けに沢山の住居があります。これらの子供達が終末期を迎えるにあたり、これらの患者に割り当てられる部屋は、最後の時間を最も快適に過ごせる様、これらの患者に合わせて作られています。部屋は、あたかも自分の家にいるように感じられる様に作られていますし、子供たちが部屋に入るときに最も好きなおもちゃ、ゲームや、DVDが待っているように用意されています。ホスピスの施設には遊戯室、ティーンエイジャー専用室、硬直した関節や、攣縮発作を緩和する温泉と浴後冷却室や、事故を起こす恐れのない安全な遊戯室があります。またゲーム部屋や大規模な台所、この家の心臓部となる食堂があります。そのほかにリラックス、一休みができる居心地の良い部屋も幾つかあります。



芸術的に飾られた部屋でのキングスウッドワイズメンズクラブのメンバー

このホスピスはわずか17%しか国庫の補助を受けていませんので、主として慈善的な献金に依存しています。チャールトンファームホスピスは、か弱い子供たちと、その家族の方々をサポートすることを奮い立たせる場所です。

アラン ウオリントン
Y's Men's World 前編集者

精神衛生向上の支援運動のためにペラック協会を訪問するイポーのワイズメンズクラブ



マレーシア、イポーのシルバーステートワイサービスクラブの会員と、家族や友達は、8月に精神衛生向上運動をしているペラック協会を、保護を受けている

患者たちの支援と慰安のために訪れました。ワイズメンズクラブは、少額の現金の献金とは別に、100食のメアリーブラウンチキンと米飯の食事を患者に提供しました。献金の活動とともに、会員や友達は患者さんが作った工芸品を購入しました。患者さんたちは我々のために歌でもてなしてくれました。会員と患者さんたちは踊りも楽しみました。

「創立者の日」を祝して絵画コンクールを実施

“創立者の日”を祝し、かつ理事の主題である“子供たちと交わり、教育し、そして自信をつけさせる”ことを促進するために、バンガロール第2部は「私たちの素晴らしい世界」のテーマに沿って子供たちのための絵画コンクールを12月初めに開催しました。障がいのある学童も含めて、市内の色々な公立・私立学校から170余名の子供たちが週末の荒れた天気の中にも関わらず、参加してくれました。この行事には、ワイズメネットが企画し、ワイズユース、ワイズリングス、そしてワイズメン等の支援を得て実施されました。子供たちは、会場に着くと全員がTシャツと飲み物を支給されました。入賞者には現金やトロフィーが与えられ、また、参加者全員に参加証明者が手渡されました。



絵かきに没頭中の子どもたち

賞品授与後写真に納まった参加者と運営者写全員
シーグラ・ルイス:部ワイズメネットコーディネーター

クリスマスを楽しむ、そのことを共有しよう1年のこの時

ベンディゴワイサービスクラブ(オーストラリア)では、12月初旬に毎年恒例のクリスマスツリーの販売を開始しています。ワイサービスクラブのファンドのために12月第1週の週末にYMCAのあるムンディー通りに約200本のクリスマスツリーが運びこまれました。それで得たファンドは地元へのチャリティーのために使用されます。当クラブでは1年間で800本、ツリーを販売する計画となっています。

「私たちは、クリスマスツリーの販売を1954年に開始しましたので、もう60年以上続けていることとなります。市民の方々はツリーが本物であることを知っているため購入してくれています。ツリーは根覆いがされていますので、(クリスマスが終わったら)庭に植えればツリーとして再生できると思っています。」とコーディネーターのケン・モリソンは言いました。



Bendigo Advertiser のご好意で記事を掲載

ワイサービスクラブとロータリークラブとの協働活動

ウルグアイ、モンテビデオにあるワイサービスクラブとアグアダ・ロータリーおよびその傘下のローターアクトグループ(ユースグループ)との間で締結した協働計画の一環として、ロータリーで集めた色々なTシャツを仕分けし、パッキングを皆で行い、白血病を患っている若者を支援する非政府団体に届けました。

モンテビデオワイサービスクラブはラテンアメリカ区の中で最も古いクラブで2017年8月に77周年を祝いました。

ロータリー、ローターアクトそしてワイサービスの役員が手を休めて



クラブのリーダーは、実施した活動に関する記事を1枚以上の高解像度の写真と適切なキャプションを付けて国際本部に送られることをお勧めします。記事は、150語(英語)以内でお願いします。読者の皆さんもグローバルな我々の運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。記事と写真を www.ysmen.org/yimiworld までお送り下さい。

次号掲載記事の提出締切日:2018年2月28日

「希望を持ち続ける」

オリーブキャンペーン：パレスチナ人の非暴力と連帯の抵抗

2000年9月以来、イスラエルの占領軍によってパレスチナの領土で100万本の樹木と数千ヘクタールの農地が破壊され、占領地で毎日行われている定期的な訓練で約50万本のオリーブが伐採されて来ました。

「オリーブの木キャンペーン」は、パレスチナのYMCA、YWCA、学生キリスト教運動(SCM)の合同支援構想によって創られたプログラムです。

安全保障上の理由で、パレスチナの土地は、イスラエルの居留地、道路、そして隔離の壁を広げるため、何百万本ものオリーブの木が破壊され没収されています。オリーブの木は平和、知恵、繁栄の象徴のほずなのですが、何世紀もの間、オリーブの木はパレスチナ人の経済的な発展を手助けする手段だけではなく、日常生活、文化、伝統を守る重要な部分でした。

この「希望を持ち続ける」という活動は土地の没収を防ぎ、土地を失う恐れのある農民を支援し、スポンサー制度やボランティアの派遣を通じて、結束した国際支援を目的としています。非暴力抵抗運動のためのキャンペーンを行って、毎シーズン11,000本のオリーブを植えることを目的としています。

マルセロ・ライツ氏による「オリーブの木キャンペーン」のコーディネーター、モハナッド・アル・カイジー氏のインタビューは、世界学生キリスト教連盟(WSCF Geneva、www.wscfglobal.org)の公式刊行物である「Federation News」に初めて登場しましたが、その好意によって以下に転載いたします。

ML(マルセロ・ライツ):キャンペーンの内容は何ですか?

MQ(モハナッド・アル・カイジー):このキャンペーンは、2002



パレスチナの農民がボランティアの助けを借りてオリーブの木を植えている

年に分離壁が建てられたのが始まりで、それは、イスラエル人がイスラエルを守るために作られたものではなく、パレスチナ側の土地を次々に奪うために作られたものでした。当時、農民は自分達の土地を守ることは出来ませんでした。イスラ



モハナッド・アル・カイジー

エル人は、3~5年以上その土地が空けば、その土地を取り上げるといった法律を設けました。

ご承知のように、YMCAとYWCAは暴力行為を認めてはおりません。なので、私達は農家を保護し、支援するキャンペーンを考えました。このキャンペーンの理念は、空いた土地にオリーブの木を植えることで、イスラエルから土地の没収を防ぐことが出来ます。我々は、農民達がオリーブを植え、育成し続ける土地を維持し、何も無い肥沃で未開拓な土地を開拓していく援助をしています。

ML:これらの土地はパレスチナの領土に属していることがわかりましたが、イスラエル軍や当局はこの活動をどのように見ているのでしょうか?

MQ:イスラエルは力を持っています。彼らは法律、政府のルール、軍隊の力をパレスチナ人から土地を没収するために使います。私達は農場に居て、農民家族を保護し、土地を守るために出来るだけ多くのボランティアを送って抵抗しています。

ML:地方経済発展と土地保護のキャンペーンの主な成果は何ですか?

MQ:ご承知のように、農民が木を所有し、私たちによって支えられている時、彼らはその土地をイスラエルの没収から守られています。2年後、農家はオリーブ栽培でいくらかの収入が得られるようになります。これは農家にとって経済的に良いプロジェクトになっています。

これまで、私達は10万本以上のオリーブの木を植えて来ました。農民たちは2002年から木を植えて来て、オリーブの木からいくらかの収入を得ることが出来ています。今現在、彼らは土地を持ち、オリーブの木の収穫から



生計を立てることが出来ているのです。

ML:パレスチナの外ではキャンペーンはどのように行われているのですか？

MQ:毎年パレスチナに来る何百人もの外国人が、私たちのプログラムを通じて、この現実を学んでいます。これは私たちの最大の成果の一つです。パレスチナの状況について何も知らなかった何百人もの人々が、キャンペーンを通じてこの地域に来て、領土内の現実を目の当たりにしています。彼らは自国や地域社会に戻り、ここで起こっている現実を自国で広める活動をしています。

世界中の仲間が自分達の国でこのキャンペーンを推進し、私たちを彼らの国に招いて、土地没収の問題や、人々がその土地を守るために、どのように苦しんでいるかを語らせてもらっています。

彼らは小さな貢献と共に木や種を支援して、このようにしてパレスチナ人とつながりを持つようになりました。

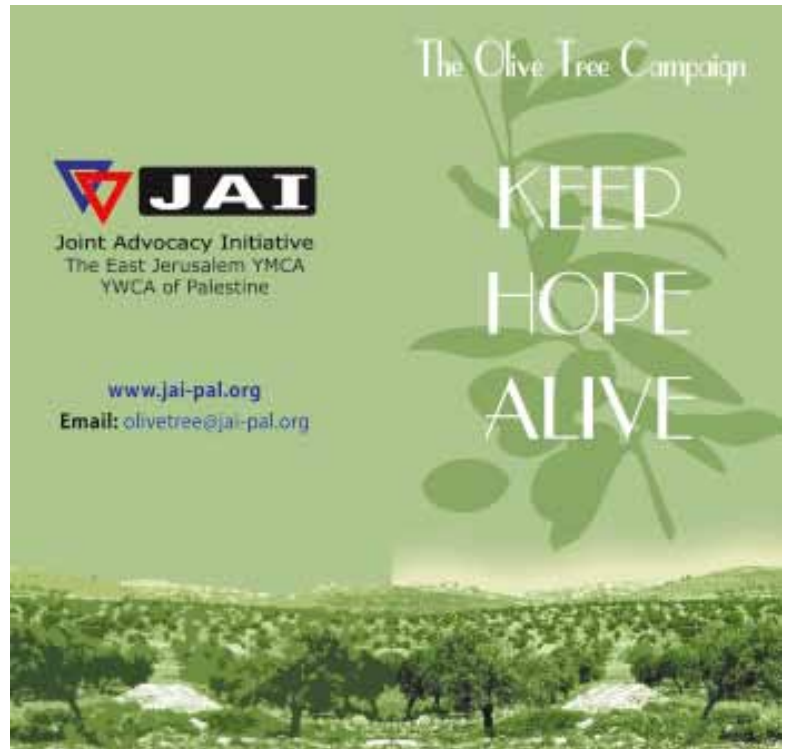
私達はメールでやり取りをしています。彼らは自分達がオリーブの木を通してつながっていることを知っています。私たちは支援提供されたオリーブの木と、それを育てている農家のことを支援者に伝えています。彼らは農家の今までの歩みを読んだりして、彼らの日々の生活やその土地の維持にかかわる苦しみについて聞くことができます。

ML:それゆえ、これは非暴力的な抵抗の形なのですね。では、このキャンペーンをどのように評価されますか？

MQ:私たちは立ち上がり、平和的に抵抗する方法を見つけようとしています。私たちの土地にオリーブの木を植えることは、抵抗し、領土を守る最も継続出来る方法なのです。われわれが発見したもう一つの重要な成果は、何千人ものパレスチナ人の農民が自分達の土地に留まって、イスラエル人の手の届かない所に居る、という希望をまだ持っています。毎年彼らの土地に国際ボランティアが到着して植え付けや収穫を手伝っているのを見ると、彼らに大きな希望を与えてくれます。

私たちの国では、希望が無いと生き残るのが難しく、しかし、世界各地から来ている人々が私たちを支えてくれるのを見ると、それは、私たちに希望を与え、私たちは孤独ではありません。間違いなく平和的な解決の方法はあります。

ML:あなたは、イスラエル占領の猛攻撃に対する平和構築、経済的、生態学的正義と積極的な非暴力的抵抗について話されました。ラテンアメリカと南半球では、何度も、また、さまざまな形で、平和、土地、経済、暴力の面で同じ



オリーブの木キャンペーン 希望を持ち続ける

問題があります。それらは、最も脆弱で貧しい人々の苦しみなのです。私は、国内の暴力、不平等、土地収奪によって数百万人が追い払われているコロンビアのことを思います。

私は、生活を破壊する経済軍事制度に対して同じ様に闘っている人々の間で、南部一南部の協力に向けてより働くことが重要であると理解しています。

MQ:今やソーシャルネットワークを利用して、南部の人々は私たちの話を聞くことができ、苦しみを分かち合い、私たちと寄り添うことができます。私は、一体感を持つために、南からの人々を招いています。世界全体が私たちを不公平な方法で扱っているため、ここで何が起きているのかを見てください。武器や軍隊は必要ありません。私たちは70年間のイスラエル占領に苦しんできました。人々は土地、子供、尊厳を失っています。さあ、共に立ち上がり、私たちの世界を救いましょう。

ML:世界学生キリスト教連盟から、若者、学生による国際連帯、国々と諸運動の協力が一層進むことを楽しみにしています。

MQ:この土地で何が起きているのかを見てもらうため、いつも我々は、人々を歓迎します。あなた方のご支援にとっても感謝しています。このことが我々に戦い続ける希望を与えてくれます。

YMIサテライトオフィスの現地YMCAとの連携

2015年初めにワイズの国際執行役員(IEOs)は、将来にわたる新しいIHQ(国際本部)の運営計画を検討し始めました。その案にはタイのバンコクへの事務所設置も含まれていました。このアイデアは、地域会長、次期地域会長とも協議されました。最初は皆さん驚かれましたが、戦略的なオペレーションセンター(サテライトオフィス)の設置、国際本部の縮小は、ワイズ会員数の減少とそれに伴う収入減への対抗策として賛同を得ました。ICM 15そしてMYM 16での議論を経て、タイのチェンマイが、バンコクより優れた地理的条件、低コストの観点から最終的に相応しい場所として選ばれました。予算案は、台北でのICM 16にて承認を受け、国際大会の後、私(西村)は、チェンマイYMCAの中の新しいサテライトオフィスに移りました。チェンマイYMCAからの支援は期待以上のものです。タイは歓迎してくれています。多くのYMCA関係者はワイズメンであり、素晴らしいご協力をいただいています。

開所以来、多くの人々の訪問を受けましたが、2017年2月にはMYMが開催され、7月には初めてのアジア太平洋地域大会も開催されました。2018年7月には世界YMCA同盟の大会が計画されていて、1,200人以上の出席者を期待しています。

タイの事務所の運営の改善にさらに心がけて行きます。ICM 17での承認を得、YMI基金(タイ)の設立を申請し、最近、認可が下りました。このことにより、タイにおける私たちの法的立場も強固となり、将来の活動が容易になるでしょう。

スイス・ジュネーブのIHQスタッフとの連絡も毎週のテレビ会議、定期的なeメールなどを通じて、問題なく行われています。

私は、経費の観点も考慮して他の公式訪問とうまく合わせて、ときにジュネーブを訪問しています。サテライトオフィス

設置の成果は既に明白です。2016/17年度の収支は大きな黒字となりました。ICM 17での承認を受け、黒字の30%は「地域支援」(SAS)に、20%は「Towards 2022」に向けて使用されます。サテライトオフィスのおかげで、強固な地域運営実現の方向に進んでいます。

私たちの運動の指導者に変革への知恵を、そして地域YMCAとの一層強力な提携関係を与えてくれた神に感謝します。「Towards 2022」そしてそれ以降に向けて、YMIがさらに前向きな変革を進めることが出来ますように祈りましょう。

神の祝福を

国際書記長 西村隆夫



チェンマイのサテライトオフィスを訪れた、YMIグリーン大使のコーリン・ランビー(左から2番目)。国際書記長とチェンマイYMCAのスタッフとともに。

2017/18 年度YMI(ワイズメンズクラブ国際協会)写真コンテスト実施

ワイズの皆さんは、各人のレンズを通していろんなワイズ活動を視ています。是非、皆さんにも見せてください。

■応募期間：2017年12月18日～2018年3月31日

■応募テーマ：以下のテーマで1人3枚まで提出できます

クラブ活動、コミュニティー・サービス、LT、ユース、YMCA とのパートナーシップ。

■賞品 テーマ共通：上記のテーマ分野全体を通じて1位:300スイスフラン、2位:200スイスフラン、3位100スイスフランが贈呈されます。

テーマ毎：各テーマ別に素晴らしい写真に表彰状が授与されます。

■応募方法：ウェブサイトwww.ysmen.org/contests から応募してください。

■応募条件その他の詳細は、ウェブサイトをご覧ください。



もうひとつのきよしこの夜

タイに住んでいた頃、私は時折自宅から数区画離れた場所にある大きなデパートに出かけました。そのデパートの裏を走る小さな通りの先に、この大きな建物の建設前にその建設予定地から立ち退きを余儀なくされたスラム街の住民を慰める為に、デパートの経営者によって建てられた道教神社がありました。

全ての道教神社がそうであるように、その神社は、装飾用の円柱に巻きついている色艶やかな竜や神社内の毎日信者が持参する花、線香、果物の供え物が載っている金と赤の先祖伝来の台で飾りたてられていました。もうひとつ鮮やかに色塗られた円柱に巻きつけられていた物は、我々西洋人がクリスマスに自分達の家を飾るのに用いる類の点滅する照明でした。照明が点滅するのに合わせて、それぞれの配線の束の基にある小さな黒い箱から電子音楽が流れていました。

その神社を歩いて通り過ぎる度に、小さな黒い箱が繰り返し演奏する「きよしこの夜」の電子音楽に合わせて自分が歌っている事に気づきました。

私は、この事がとても興味深い対照をなしている事に気づいたのです。道教神社で一年中、キリスト教の一番好まれているクリスマスキャロルのひとつが演奏されているのです。しかし、瞑想し、果物をお供えし、線香を焚く為にこの神社を訪れる多くの人達は、この神社で四六時中流れているこのクリスマスメロデーの奇妙さに気づいているとは思いません。

タイを離れてから何年か経つ間に私は、しばしばあの小さな道教神社と電子音楽の「きよしこの夜」の事に思いを馳せました。私にとって電子音楽の「きよしこの夜」は、我々西洋人が、世界に輸出したクリスマスを象徴しているからです。美しい音楽の流れるクリスマス、しかしクリスマスソングの意味は、理解されていません。贈り物をするクリスマス、しかしクリスマス当日になぜ贈り物をするのかについて明確な説明はありません。平和と慈愛がもたらされるはずの日であったのに、不協和と怒りをもたらすように思える日。最初のクリスマスに関する聖書の話に馴染みのないアジアの多くの人々にとって、クリスマスの季節のテレビ番組、映画、国際的なニュースでさえもクリスマスは、ブラックフライデー（クリスマス商戦）の間のバーゲン商品を巡る奪い合い、ドンちゃん騒ぎのパーティー、食べ過ぎなどを暗示するのです。クリスマスのより深い意味について質問をする人達でさえ、残念な事にしばしば殆ど興味を示さないのです。なぜなら我々が彼らの国に輸出したお祭騒ぎのクリスマスという祝日の方が馬小屋で生まれた幼子のお話を聞くよりも遙かに面白いからです。

今年は、「クリスマスに対する戦い」についてよく耳にします。この事について他の宗教を信仰する友人達に理由を説明する方がもっと困難です。とは言っても、「クリスマスに対する戦い」は確かに存在します。この戦いは、リベラル派や民主党員、さらには無宗教の人達によって扇動された戦いではありません。

むしろ消費第一主義という強力な力によって作り上げられたクリスマスの真の意味を問いたただす戦いであると私は、考えています。その消費第一主義は、我々が幼子キリストではなく、所有物を尊ぶ事を、クリスマスの真のメッセージを神の平和な共同体が具現化された世界にいかにか転換させるかについて沈黙考するのではなく、華美な装飾とパーティーで浮かれ騒ぐ事を、我々の住む世界の苦しみを慈愛で癒すのではなく、決して使われないであろう贈り物を買う為に多大な出費をする風潮を生み出しているのです。

またクリスマスに対する戦いは、イエスとサンタクロースが白人か否か、「クリスマスおめでとう。」と言う代わりに「祝日おめでとう。」と言うべきか否かという不幸な議論も生まれました。これらの議論は、クリスマスの季節を祝う理由を厳密に明らかにする問題なのでしょうか？それとも二千年以上前に起こった出来事の価値と目的を明らかにする一日一日を我々がいかにか生きるかがより重要なのでしょうか？ここアジアで生活する人々が、クリスマスがどれほど重要な季節であるのかを理解する上で、表現方法や肌の色に関する議論は、まったく意味も重要性もありません。アジアの人達の心に明瞭かつ有意義に響くのは、キリストの誕生が我々の慈愛と愛と正当な平和に満ちた行為に反映されるような生活を送ることです。イエスは、重い皮膚病を患っていた人を癒した後で、その人に病気を癒した事について誰にも話さないで、ただ黙って司祭に癒された体を見せるようにと語りました。「福音」によってイエスは、この行為を「あなたの言葉ではなく、あなたの清く従順な生活が、私がした事の証となるでしょう。」と語られる事によって説明されました。

誤解しないで下さい。私は、クリスマスの装飾、食べ物、パーティー、贈り物は大好きなのです。私達は、それらの物を、寒くて暗い馬小屋の飼い葉桶の中で眠っている世界を変える事になる幼子の姿を妨げる事のない適切な場所に置かなくてはなりません。そして、我々の社会で多くの分裂とレッテル貼りを引き起こしているように思える些細な事柄に関する議論に終止符を打たなければなりません。結局のところ、天使達の歌「いと高きところには、栄光、神にあれ、地には全ての人に平和あれ」は、平和の統一されたメッセージだったのです。クリスマスの季節とそれ



に続く新しい年を通してそのメッセージに焦点を合わせて生活を送りましょう。

★マックス・エディガーは、カンボジアで設立された「平和の学校」の運営責任者です。www.mennolink.org/peace アメリカ合衆国メノナイト教会平和・正義支援ネットワーク・ネット出版、ピースサインズの許可を得て転載。

小さな捧げもの、 大きなインパクト

タイム・オブ・ファスト・グローバル プロジェクト基金 【TOF-GPF】 ワイズメンズクラブ国際協会の最重要プログラム

タイの農村での韓国ワイズメン医師の活動

TOF-GPF は、ワイズダムの精神を反映し、会員に最低、年1食を犠牲にし、その金額を基金に捧げることによって奨励されています。

この献金は、国連の持続可能成長目標 (SDGs) に焦点を置いた様々な YMI と YMCA のプロジェクトを支援しています。毎年総計約 18 万ドルが 8 件前後の新規プロジェクトに資金提供されています。

1972 年の開始以来、650 万ドル近くの金額によって、30 カ国以上、数百のプロジェクトを支援してきました。

ワイズメンズクラブ国際協会
ワイサービスクラブ国際協会

献金は <http://www.ysmen.org/donate> から



TOF-GPF 強調月間
2018 年 2 月

